標本棚 私と趣味

ノミはなぜはねる

故佐々学先生の著作より

◎マラリアとの出会い

海軍軍医として一九四三年の夏、六ヶ月インド洋に面したペナンに滞在した。

イギリス人の捕虜のなかに、ゲーターという蚊の専門学者がいて、この地方に発生している蚊の分類や生態をすでに詳しく研究していた。

マレーには五十種類以上のアノフェレス（ハマダラカ）が生息しており、そのなかでとくにマラリアを媒介するアノフェレス・ミニムスという種類は、山脚の湧き水や渓流のふちにボウフラがいることを知った。

当時の日本軍は宿舎のまわりの草むらを切り払い、ボウフラのわく水たまりをなくすといった程度の知識しかなかった。

このような情報をせっせと東京の海軍軍医学校に送って、南方にいる日本軍全体のマラリア対策に役立たせてもらおうと努力していたのが、その当時の私の生活だった。

その後、戦争半ばで呼び戻され、東京築地の海軍軍医学校で実験マラリアの研究を担当した。蚊の飼育や原虫の検索を独学で開拓、終戦時は海南島の陸戦隊の軍医長でマラリアに取り組んでいた。

◎ノミはなぜはねる

ノミは跳ねる。しかしなぜ跳ねるのだろう。そこで実験を試みた。

まず三角コルベンの中にノミを入れて空気を吹き込んだがノミは跳ねない。さらに温めた空気も、外から熱線をあてても音や振動をあたえても動かない。

そこで、息の中のどの成分かを実験したところ、ノミの反応の強さは二酸化炭素の濃度だけに支配されることが証明された。

こうした一連の実験によって、「ノミはいつもじっと静止しているが、人が近づくと人の吐く息の中の二酸化炭素を感じて跳ねる。そして人にたかるチャンスをつかむ」という仕組みが明るみに出された。

その結果は英文で簡単な論文に発表したが、いまだに反論はなかった。

＊故佐々学先生のご著作を紹介した原稿の中から、マラリアとの出会いとノミに関する部分を抜粋いたしました。

私と昆虫

アペックス産業（株）業務課　阿久津　夏暉

私が昆虫に本格的に興味を持ったのは小学校高学年の頃でした。

両親に買ってもらった昆虫図鑑を眺め、時たまクワガタムシやカブトムシを学校の裏山に採りに行く、そんな子供時代を送っていました。

小学校の授業の一環で農作業を行なった際、耕土の中を歩く一匹の小さな虫に出くわしたのが、今でも強く印象に残っております。

図鑑でしか見たことがなかった「ハネカクシ」の一種。注意して見なければ分からないような小さな虫でしたが、確かにそこに彼らはいました。

カタモンハネカクシ

私たちのすぐ隣、すぐ足もとにも知らない世界は広がり、そこにはまだ見ぬ隣人が生きているのだと、そう実感したことが、思えば昆虫と関わる一番のきっかけになったのだと思います。

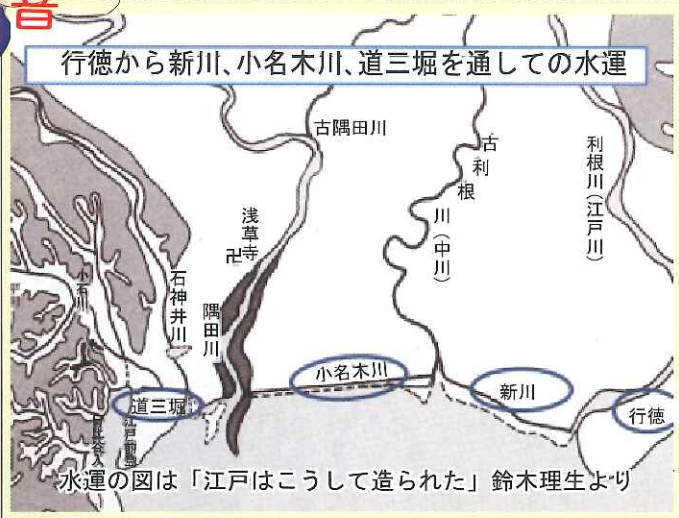
江戸城築城の秘話（その三）

江戸文化歴史研究員　窪田　孝

江戸での仕事はインフラ整備を最優先とした。天正十八年八月一日、八朔の日から江戸に入府し、最初に取り組んだのは、住居や城の改修ではなく、大名体制つくりと町づくりとした。

「江戸名所図会」より小名木川五本松

まずはインフラの整備、生活の基盤固めとして、飲料水と塩の確保を最優先とし、上水や溜池を建設、さらに水運による物流の整備に注力した。行徳の塩の供給のため、小名木川・新川を掘削、さらに道三堀を城の直下まで掘削し、新川、小名木川・道三堀を利用して、安定した塩の供給のみならず、町づくりのための建設資材や生活物資の輸送がおこなわれた。全国レベルでの「天下普請」が始まる前の、工事経験の少ない徳川家の家臣がかりだされている。この時期、徳川家は豊臣家配下の一大名であり、一門や譜代の大名に対してのみ人夫を供給させている。自らの住まいや城の整備は本格的工事には至らず、準備と応急修理にとどまっている。インフラ整備としての沿海運河は、海の気候変化、潮の流れ、波、などに左右されない安定した大動脈となり、利根川を経由した東廻り廻船航路は、江戸と東北地方を結ぶ列島規模の大動脈となった。



猫派か犬派か

写真家　石崎　幸治

世の中の人間は猫好きか犬好きかに分けられる。私はずーっと犬派だと思っていた。帰宅したときに妻と違い、喜びを全身で表して迎えてくれる。犬は呼ぶと駆け付けるが猫は呼んでも駆け付けた試しがない。本当に猫と女は御しがたい。

娘が猫を飼いたいと言ったときは犬派としては反対した。そもそも住んでいるマンションは犬や猫の飼育が禁止されている。可愛い猫が見つかって娘はもうすぐ家を出るからという条件で、我が家にほんの短い間だけ猫がいた。

猫に接してみるとそのとき仔猫だったせいもあり、

上野動物園のパンダの赤ちゃんのシャンシャンほどでないが愛くるしい。

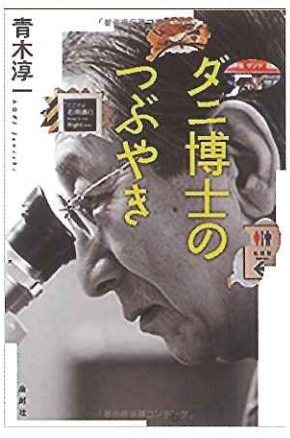
呼んでも駆け付けないのは、猫だからしょうがない。

子供のときの経験では猫は撫でようとするとシャーと威嚇したり、家具を爪とぎにしてボロボロにするイメージがあった。猫の習性を理解して接すれば、人間が困る行動はしないようである。

犬と違いお手などはしないが、猫には人間を和ませる力がある。

夫婦の会話も少なくなったので我が家でも猫を飼いたいと思うが、今から飼うと猫の方が私より長生きしそうで悩ましい。娘の所に行って可愛がるのが丁度良いのかもしれない。

触覚BOOK



ダニ博士のつぶやき

青木　淳一 著
論創社　1600円（税別）

野山でダニを採集するのも面白いが、街中で人間の生態を観察するのも面白い……というダニ博士を自認する著者が、人の心や行動、飲食での出来事、本当にあった怖い話などを綴ったエッセイ九十五話と意地悪川柳集。

推薦文を寄せた養老孟司氏いわく「面白くて、ためになる本。青木さんはへそ曲がりじゃありません。世の中の方が曲がっているんです」

内容は「人・心・行動」「食べる・飲む」「本当にあった、ちょっと怖い話」「気になる日本語」「意地悪川柳」に分かれている。

著者の観察眼の確かさ、鋭さ、そして博学多才ぶりに感心させられ、「確かに世の中の方が曲がっている」と、思わず納得してしまう楽しさ溢れる内容です。

横浜国立大学名誉教授。八十代とはとても思えぬ若々しさに脱帽です。

むしくいず

十	三	録	八
夜	車	機	身

ヒント文字

音海五岳頭六輪妻

問題　黄色の部分にヒント文字の中から一文字を選んで、三文字熟語を作ると、黄色の部分が四文字熟語になります。

その四文字熟語から連想される人名をお答ください。

「答え」四熟語から連想される人名は、「○○○○」です。

◆応募規定　ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。
〒105-0014　東京都港区芝２の23の４
アペックス産業㈱内　ＡＰＥＸ ＣＬＵＢ宛
ファクシミリ番号　03-3455-6558
締切は平成30年８月末日（当日消印有効）
正解者の中から抽選で若干名様に記念品を差し上げます。

★前号の正解と当選者（順不同）
正解は『防虫』でした。
当選者は：良永賢一郎、横山悦子、角野智紀の３名様です。